モユク☆カムイ NO.102

●モユク・カムイとはアイヌ語で「エゾタヌキ」のことです。

October 2019

ASAHIYAMAZOONEWS
あさひやまどうぶつえんニュース

カバ

Hippopotamus amphibious

表紙の絵：児童画コンクール
旭川市教育委員会教育長賞
向井　絢音さん

もくじ

ぼくは動物大使　その63
森林に舞う クマタカ……1.2

特集 旭山動物園の夏イベント!……3.4

飼育研究レポート
オランウータン兄妹の同居飼育……5

飼育スタッフおすすめの書籍紹介……6

主なできごと
編集後記・飼育動物数……7

ぼくは動物大使 その63

森林に舞う クマタカ

クマタカ

学名　*Nisaetus nipalensis*
分類　タカ目　タカ科

ヒマラヤから東南アジア、日本などに分布。日本がクマタカの生息域の北限であり、北海道から九州に留鳥として生息し、亜種名は*N.n.orientalis*。

主に森林に生息。

動物食であり、中・小型鳥類や哺乳類、ヘビなどを捕食する。

国内では環境省レッドリストで絶滅危惧ⅠB類（EN）に、また、国内希少野生動植物種に指定されている。

クマタカの分布

体

全　長　約70～80cm
翼開長　約140～170cm
体　重　約2～3.5kg

翼

幅が広く少し丸みを帯びている。日本で見られる他の大型猛禽類に比べてやや短く、樹木など障害物が多い森林の中を飛ぶのに適した翼となっている。

食べ物

小型-中型の哺乳類・鳥類・ヘビなどを餌とする。旭山では馬肉やヒヨコなどを給餌。

狩り

おもに樹上で獲物が現れるのをじっと待ち、目標を定めたら勢いよく飛びかかって狩りを行う待ち伏せタイプ。

頭

頭は黒く、後頭部の羽毛はやや長く伸びて冠羽状になる。
目の色は幼鳥では灰青色だが、成長とともに黄色くなっていき、成鳥ではオレンジ色になる。

巣立ちした頃のクマタカ幼鳥
（令和元年6/11ふ化、8/29撮影
園内北海道産動物舎にて）

繁殖

森林内の大きな樹木に巣をつくる。
繁殖期は年一回。一夫一婦であり、一度に1卵を産む。抱卵期間は約1ヶ月半。巣立ち時期ははっきりしないがふ化後70日程で巣の近くの枝へ止まるようになり、次第に飛んで移動できるようになる。

種名のあれこれ

●クマタカは漢字で角鷹、熊鷹などの書き方があり、読みはどちらも「くまたか」である。大きく強いという意味を込めて、クマ・タカと呼ばれたようだ。
角鷹の書き方は頭の冠羽が角のように見えることから。古くから角鷹と書かれていたが、難しい読み方なので、読みやすい熊鷹という書き方もするようになってきている。

●英語ではMountain Hawk-eagle直訳すれば「山のタカワシ」。どっちなの？というような名付けになっている。
日本語ではタカとしているが、ワシと言ってもいいほど体が大きいということなのか。
実は、分類上タカとワシに明確な違いはない。大きさや見た目などからなんとなく呼び分けているに過ぎないのだ。

森林生態系の頂点 ～森の王者～

クマタカに天敵はおらず、森林環境においては基本的には常に「食べる側」。つまり日本の森林生態系の頂点に位置している動物であり、そのため「森の王者」とも呼ばれます。

特定の食物に依存せず幅広く様々なものを食べる動物であり、クマタカが生きられるということは、森林環境が豊かな状態にあるということです。逆に森林環境の変化や悪化による影響を最も受けやすいのもクマタカということになります。

森の王者に迫る危機

現在、クマタカの生息状況は悪化しており、絶滅が心配されています。

森林開発や偏った種類の樹木ばかりを植林すると、森林環境が悪化して中小動物が減少し、それを獲物とするクマタカが影響を受けます。豊かな食物がなければ、そこでの生活や繁殖が難しくなっていきます。また食物連鎖の頂点に位置するクマタカは残留性の有害物質が生物濃縮によって蓄積しやすい動物でもあります。

クマタカが生きるためには豊かで多様性のある森林生態系が必要です。これをいかに保護していくかがクマタカの保護において重要なことになります。

特集 旭山動物園の夏イベント!

今年も北海道の短い夏があっという間に終わってしまいました。旭山動物園では、動物たちのことやその現状、環境問題など多くの方々に知ってもらったり考えてもらうためにさまざまなイベントを実施しています。紙面の関係上すべてをご紹介することはできませんが、この夏にどのようなイベントを実施したか、をご報告します!

7月13日～14日

市民の企画提案による協働まちづくり事業
「坂東園長とエゾシカたちの森で寝てみよう」開催!

旭山動物園と市民団体　繋ぐのは命プロジェクトの共催で実施しました。旭川市21世紀の森を舞台に北海道の環境と生きもの、そして地球の環境について親子で体験し、学ぶイベントです。森の散策やエゾシカ肉カレー、森の工作など、身近な自然を楽しく体験する時間となりました。

森の散策 スタートでスズメバチが登場

7月29日～31日

旭山動物園 × 富良野自然塾 × 大雪青少年交流の家 連係イベント
「第3回 46億年 地球の 命」開催!

今年で3回目となった旭山動物園と富良野自然塾、大雪青少年交流の連携イベント。富良野自然塾で熱帯雨林（ジャングル）の減少について学んだ後に、旭山動物園で熱帯雨林に生息するオランウータンの現状を学習するなど、さまざまな体験が繋がり、地球や動物の事を学習する内容となっています。望岳台でのトレッキングやニホンザリガニ探しなど旭山動物園だけでは体験できないことの連続でした!

年々、熱帯雨林がどんどん減少･･･

そこで暮らすオランウータンの未来は?

8月10日～16日

第32回「夜の動物園」開催!

夏の定番イベント「夜の動物園」では夜の動物たちの生態を観察してもらうために21時まで開園時間を延長しました。動物たちの夜の生態を解説する「ナイトウォッチング」や飼育スタッフが普段語ることのない動物の話をする「キーパーズカフェ」など夜の動物園ならではのイベントを行いました。園内は屋台コーナーや市内小・中高生が制作した大型あんどんなど、夏の夜にふさわしい時間となりました。

ナイトウォッチングで夜の動物観察

7月1日～9月30日

「自然体感! あらうんど 大雪 スタンプラリー」開催!

大雪山周辺地域で動物を観て、川で遊び、「いきもの」の視点で空を飛び、北海道の恵みを味わうすべての時間を一つの旅と捉えた地域連携活動「自然体感!あらうんど大雪」のスタンプラリーを行いました。

それぞれの施設を体験してスタンプを集めると特典としてオリジナル缶バッチやエゾシカうんちストラップのプレゼントを行いました!

8月1日～3日

第44回「サマースクール」開催!

小学校5～6年生を対象にした飼育スタッフの仕事を体験してもらう夏の定番イベント「サマースクール」。動物の寝室の掃除やエサ作り、動物たちの暮らしを豊かにするフィーダー（給餌器）作りなど飼育スタッフが普段行っている仕事を体験してもらいました。最後に体験した事を看板にして園内各所に掲示しました。看板は個性的な力作揃いですので旭山動物園に遊びに来た際はぜひご覧ください!

作ったフィーダーをジャックに!

8月10日～11日

「環境保全に繋がる販売活動」開催!

夜の動物園期間中の土日に合わせて実施した「環境保全に繋がる販売活動」では、ボルネオ保全トラストジャパン、知床財団、日本野鳥の会、山恵の商品を特設テントで販売しました。

商品を買うと売り上げの一部が環境保全活動に活用されたり、環境保全団体を支援することに繋がります。また、エコバックやエコボトル、エゾシカ製品など私たちの日常から取り組むことができる環境保全商品も同時に販売しました。人と自然が共に生きていく未来のために私たちが日常から取り組むことができる“選んで買う”という行動について多くの方に知ってもらう機会となりました。

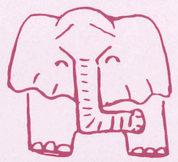
自然の現状を知った上で商品を選ぶ!

キーパーズカフェで知床財団の職員に知床の現状についてお話してもらいました。

9月1日

市民の企画提案による協働まちづくり事業
「北海道自然フォーラム」開催!

旭山動物園と市民団体　繋ぐのは命プロジェクト、科学館サイパルの共催で実施しました。今津秀邦監督作品　映画「生きとし生けるもの」を鑑賞後、ヒグマの会副会長の山本牧さんより「ヒグマはどんな生き物か」というタイトルの講演をいただき、山本さんと坂東園長のパネルディスカッションを実施しました。



飼育研究レポート

～オランウータン兄妹の同居飼育～

旭山動物園では2019年3月に母親オランウータンのリアンがくも膜下出血で亡くなり、現在は父親のジャックと息子の森人（モリト、12歳♂）、森人の妹の森花（モカ、4歳♀）の父子3頭を飼育しています。

オランウータンは群れを作らず単独性が強い動物なので当園ではジャックを子どもたちとは分けて飼育しており、森人と森花の兄妹は終日同居飼育にしています。しかしこの兄妹の同居飼育は野生での暮らしを考えると少し不自然なことなのです。

オランウータンの母親は子どもを1頭ずつ育て、十分に成長し親離れが近くなってからようやく次の子どもを妊娠します。弟や妹が生まれて少し経つと兄や姉は親離れをします。そのため母親と兄弟2頭が一緒に行動することは短期間あっても、兄弟だけで暮らすことは普通ありません。

リアンが亡くなった後、森花は私が心配していたほど落ち込む様子もなく、元気や食欲も変わらずあったので、そのまま1頭での飼育を継続することにしました。

空腹時に鳴くようになったので餌はこまめに与え、寂しくならないように時間があるときはスキンシップを多くとるようにしました。夜の間は窓越しにジャックが見える寝室で過ごすようにしました。月日が経つにつれて鳴くこともなくなり単独飼育は順調に過ぎていきました。

ただ、森花は単独で飼育するにはまだ早く、他の個体との関わりの中で成長することも必要です。そこで森人と一緒にしてみてはどうか？という案が出ました。森人と森花はしばらく同居しておらず、その間に森人も大人に近づきつつあり、森花への態度が変化していることも考えられましたが、温厚な森人であれば森花の精神的な支えになってくれるかもしれないという思いで試験同居を行うことにしました。

同居当日は園長や獣医立ち会いのもと不測の事態に備えて万全の体制で迎えました。

まず森花を屋外展示場へ出し、次に森人を出して同居させます。これから森人を出す旨を無線連絡し、緊張のピークを迎えながら森人の部屋の扉を開けました。数十秒の間微妙な距離を保った2頭でしたが、どちらからともなく近づき、軽く触れ合い始めると森花はスイッチが入ったように森人に激しくじゃれつき甘え始めました。すると森人は両腕で森花を抱き寄せたのです。抱きしめられた森花はとても嬉しそうに見えました。

その行動は私の予想を大きく超え、喜ぶのと同時にこれまで不安や寂しさを見せなかった森花の本当の気持ちに気づかされ胸が締め付けられる思いでした。同居は大成功に終わり、翌日以降も継続し終日同居することに決まりました。

それから3ヶ月が過ぎましたが2頭は今も変わらず元気に暮らしています。

たまにおいしい餌をめぐって兄妹喧嘩をすることもありますが、夜にはぴったり寄り添って寝ています。森花がもう少し大きくなるまではこの兄妹での同居展示を続けたいと思っています。

リアンと森人の愛情をたくさん受けた森花が今後どう成長していくのか楽しみです。

（オランウータン・オオカミ担当　佐橋　智弘）

飼育スタッフおすすめの書籍紹介

モユクカムイ編集会議で以前から「書評のコーナーをやってみたい！」という声があり、今回はじめて3名の飼育スタッフにおすすめの本を紹介してもらいました。みなさんも読書の秋にどうでしょうか？

オランウータン担当 佐橋のおすすめ

オランウータンってどんな『ヒト』？ 久世濃子著　朝日学生新聞社　1000円+税

私がオランウータンの担当者になったばかりの頃、オランウータンについて何もわからない私に前任の担当者が薦めてくれたのがこの本でした。

著者は国内では数少ないオランウータンの研究者の一人で、研究のため何度もボルネオ島へ行き、調査して得られた貴重な情報がこの一冊に詰まっています。

この本は小学生からを対象に作られており、オランウータンの歴史や生態、絶滅が心配されている厳しい現状など26話がテーマ別にわかりやすく書かれています。1話が5ページで完結するので長文が苦手なお子さんや、初めて動物の本を読む方もスラスラ読めると思います。

また、国内では研究がほとんどされていなかったオランウータンの研究者を志し、研究者になるまでの経験談や調査の苦労話なども書かれており、動物の研究者に興味がある方にもおすすめです。

キリン担当 佐藤のおすすめ

キリン解剖記 郡司芽久著　ナツメ社　1200円+税

春にキリンの担当になり、「キリン」と言う言葉に敏感になっていた7月。某通販サイトをみると「キリン解剖記」発売予定の文字が。すぐにクリックし、わくわくしながら発売日を待ちました。

著者が研究している内容は主に動物園で死亡したキリンを解剖し、その筋肉や骨について調べることです。様々な解剖の経験を経て著者が研究のテーマであるキリンの首の構造に向かい合い、悩みながらも発見に至る経緯が書かれています。とても分かり易い文章で書かれているので、解剖のことを知らなくても読めると思います。読了後、もっとしっかりキリンを観察しなきゃいけないなと思うとともに、死はつらいことではあるけれど、死んだ後も動物たちから学び、伝えることができるのだと改めて感じました。

北海道産動物担当 佐藤のおすすめ

北海道の動物たちはこうして生きている 富士元寿彦著　北海道新聞社　2000円+税

担当動物が変わるたびに本を探して読むのですが、この本は北海道産動物舎の担当になった時に見つけました。地元の動物とはいえ野外で簡単には会えないので、かれらがどんな場所で暮らしているか、どんなものを食べているのかなどを知るためには、本やインターネットで調べるところから始めます。

この本には北海道で見られる哺乳類と鳥類のたくさんの写真とそれぞれの動物の生態が書かれています。特にほ乳類は北海道だけで暮らす動物が多く、北海道の動物園でしか飼育されていない動物がたくさんいるので、この本でいろいろな生態を知ることができ、また、著者の40年にわたる撮影での動物たちのいきいきとした写真を見て、担当動物たちの暮らしを見直すヒントをたくさんもらえました。

主なできごと

2019年

6月 4日 アムールトラ「ナージャ」が釧路市動物園へ移動

11日 クマタカふ化

17日～ 旭山動物園内に「走る絵本」旭山動物園号を再現するためのクラウドファンディングを開始（約1350万円寄付が集まり達成）

29日 自然観察会「ウチダザリガニ防除体験バスツアー」を開催

7月 1日 52回目の開園記念日

11日 株式会社ロッテ様より氷のプレゼント

13日～14日 市民の企画提案による協働まちづくり事業「坂東園長とエゾシカたちの森で寝よう」を開催

15日 株式会社ロッテ様より氷のプレゼント

19日 ユキヒョウの「ジーマ」が出産

20日 株式会社キョクイチロジ様より氷のプレゼント

26日 株式会社橋本川島コーポレーション様より氷のプレゼント

27日 自然観察会「何が聞こえる?夜の観察会」を開催

29日 キングペンギンふ化

29日～31日 富良野自然塾・大雪青少年交流の家との連携イベント「46億年地球の命」を開催

8月1日～3日 第44回サマースクール開催

10日～11日 「環境保全に繋がる販売活動」開催

10日～16日 夜の動物園を開催

7月24日のユキヒョウの子どもの様子

夜の動物園が終わり、秋の動物園へ

夜の動物園が終わり、少し暑い日がありましたが、旭川の短い夏が終わり、朝晩の気温がぐっと下がり肌寒くなる秋の気候になってきました。

さて、動物園の秋は、動物たちも夏から冬への準備を始めている季節で、これからどんどん姿が変わっていく動物もいます。また、園内では、色々な植物がありますが、黄色や赤色などに葉を染めていく木々があり、こちらも冬への準備が始まってきています。

動物と紅葉が一緒に見られるのも、動物園ならではだと思います。暖かい格好をし、動物と紅葉を感じながら、ゆっくり動物園内を回るのも、秋の動物園の楽しみ方の一つです。

ぜひ、秋の動物園にも足を運んでもらえればと思います。

さる山から見た秋の風景

編集後記

52回目の開園記念日、夜の動物園と、あっという間に短い夏が過ぎていきました。朝晩の気温も下がり、冬の足音が聞こえてくるのもあとわずかとなりました。さて、今回の号では、新企画もあり、モユク☆カムイが少し進化できたかなと思います。これからも新企画を出せていけるようスタッフ一同がんばっていきますので、楽しみにお待ちいただければと思います。（佐賀）

最新情報はここでチェック!!

公式HP　Facebook　Twitter　Instagram

モユク・カムイ No.102 2019年10月15日

●発 行 所／旭川市旭山動物園
〒078-8205 旭川市東旭川町倉沼 ☎0166-36-1104

●発 行 人／坂東　元　●表 紙 絵／児童画コンクール　向井　絢音さん

●編　　集／高橋　伸広・大内　章広・鈴木　悠太・中村　亮平
佐賀　真一・中田　真一・中野　奈央也

●印　　刷／㈱須田製版：〒070-8045 旭川市忠和5条8丁目3-1 ☎0166-62-2266

飼育動物数

2019年8月末日現在

●哺乳類	44種	306点
●鳥　類	47種	289点
●は虫類	5種	20点
●合　計	96種	615点